

# G-SEC Newsletter

No.36 2014.5.15

## 2014年度の基本方針と活動計画について



竹中所長

駒村 圭吾 (慶應義塾常任理事・法学部教授)  
竹中 平蔵 (慶應義塾大学G-SEC所長・総合政策学部教授)  
武山 政直 (慶應義塾大学G-SEC副所長・経済学部教授)  
田村 次朗 (慶應義塾大学G-SEC副所長・法学部教授)  
青木 節子 (慶應義塾大学G-SEC副所長・総合政策学部教授)



駒村常任理事

事務局 今年度の研究所の基本方針として、こちらにありますように3つの大きな柱を掲げています。これらの方針に基づく具体的な活動計画について、ご説明いただけますでしょうか。

竹中 今年から新たに何かを始めるというよりは、これまでの積み重ねや成果(=アウト感)を明確にすることを共通認識にしたらどうかと考えています。たとえば過去に実施した寄附講座については、既に書籍としてまとめられているものもあります。「バブル後25年の検証」は、昨年度はセミナーを10回開催しましたが、今年度はそれらをベースに書籍化を計画しています。

プロジェクトによっては、書籍等の目に見える形でまとめるのが難しい場合もあると思いますが、アウト感を明確にすることを他のプロジェクトでも一つの心がけとして今年度は活動していただきたいと考えています。

### 2014年度の計画

#### 基本方針

1. 研究・教育・人材育成については、これまでの成果を踏襲してさらなる発展をめざす。
2. 慶應義塾大学と社会との結節点としての役割を充実する。
3. 研究成果等を社会へ発信し、共有するために、出版、Web広報、セミナーを強化する。

グローバルセキュリティ研究所2014年度事業計画より

田村 「復興リーダー会議」は第3期を迎えます。一つの節目である今年は、コミュニティ・オーガナイズの手法を取り入れながら、復興の場における組織形成のあり方、コミュニケーションやネットワーク能力のあり方について議論し、これまで対応



<特集> 2014年度の基本方針と活動計画について  
開催報告 G-SEC寄附講座ガイダンス  
G-SECプロジェクト委員会  
復興リーダー会議(第3期)第1回会合

した復旧・復興の場での経験を、アカデミックな形にしようという試みをしていく予定です。また、第3期の活動が終わった段階で、3年目の成果として書籍化することを考えています。

交渉学やコミュニティ・オーガナイズのプロジェクトについてはこれまで専門家を招いて研究を行ってまいりました。どちらも日本においては新しい分野であり、成果を出すという意味では、様々な形での発信方法があると思います。交渉学については既に書籍を発行していますが、もう少し実際の経験を評価するという形でのペーパーを、関係者にご協力いただきながらまとめていきたいと考えています。

また、「交渉学のすすめ リーダーの決断」をテーマとしたFaculty Seminarも開催しており、これまで様々な場面で決断をされた交渉のエキスパートをゲスト講師としてお招きしています。

こうした方々の話も取り入れながら、プラアカデミック（プラクティス+アカデミック）の分野をさらに突き進めていければと考えています。

コミュニティ・オーガナイズのプロジェクトは、この分野の先駆者であるマーシャル・ガンツ先生の教えを受けた鎌田華乃子先生を中心に進めていく予定です。鎌田先生は、コミュニティ・オーガナイズ・ジャパンという団体も立ち上げております。アメリカでは実績のあるNPO・NGOの組織づくりの手法を、日本でどのように広めていくかをプラアカデミックなアプローチで進めていこうと考えております。日本においてもニーズのある分野ですので、できるだけ早い段階で成果としてのアウトプットを出していきたいと思ひます。

したがって、復興リーダー会議については今年度中にアウトプットを、交渉学とコミュニティ・オーガナイズのプロジェクトについては、活動を継続していくことでアウトプットを出すことができると考えています。

**武山** 今年度は大日本印刷との産学共同研究と港区芝地区との共同研究を中心に活動する予定です。大日本印刷との産学協同研究については、今年で4年目を迎え、新しいイノベーション手法の開発に取り組んでいますので、その振り返りも含めた研究報告ができればと考えています。



青木副所長

田村副所長

武山副所長

書籍やWEBサイト、Newsletter等の発信媒体は今後検討し、何らかの形でこれまでの成果を発信する機会を設けたいと思ひます。

坂倉先生を中心に活動されている港区芝地区との共同研究では、今年12月に地域の方も参加する形でG-SECシンポジウムを開催する予定です。こうした場で研究成果を発表できると思ひます。また、当日のシンポジウムの開催内容については、参加できなかった方への発信を含めて広報の方法を考えたいと思ひます。

**竹中** 毎年11月にSFC ORF (Open Research Forum) 会場でシンポジウムを開催していますが、これまでは「バブル後25年の検証」や「復興リーダー会議」等のテーマになりやすいものを取り上げてきました。

しかしながら、武山先生が行われている共同研究は、研究内容がとてもユニークである印象を受けるので、今後はこうしたシンポジウムにもうまく取り入れられるとよいと思ひます。

**事務局** 所長、副所長より今年度の活動計画につきましてご説明いただきましたが、研究所の事業計画と照らし合わせてコメントをいただけますでしょうか。

**駒村** G-SECはあくまでも研究所、つまり Research Instituteだということを再認識すべきだと考えています。その上で3つの視点が重要になってくると思ひます。

一つ目に、研究者育成・研究という立場をもう一度受け止め直すことです。実際、G-SECから研究者として巣立った人材が出てきていますが、これはG-SECにとって大変重要なことだと思ひます。

二つ目は、学内におけるコミットメントの強化を重点的に考えるということです。これは今年度の活動方針の一つである「大学と社会との結節点としての役割の充実」にもつながりますが、G-SECには様々な有益なプロジェクトがあるので、学外発信にとどまらず学内・法人に対するG-SECとしての存在感を示していく必要性を感じています。

三つ目は、竹中先生がおっしゃっているようにアウト感を示すということです。G-SECは研究機関である以上、その成果を書籍等の何らかの形として残すことを考えた方がよいと思います。

G-SECとして慎重かつ大胆に取り組む、気合の入れ直しが必要な時期なのではないでしょうか。

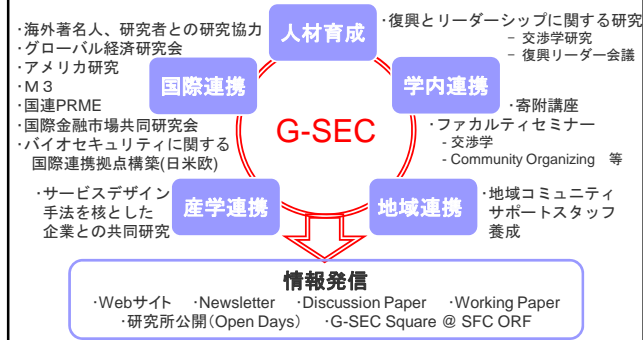
**竹中** G-SECは幅広い領域の研究を行っていますが、一方で他のプロジェクトの研究となると、具体的な内容が不明瞭なのが実情だと思います。お互いのプロジェクトについて情報交換できるような場を設けていくことも今後は重要だと考えています。

**駒村** 領域横断かつ先端的で、部門も越えて行っている研究組織は学内でもG-SECのみであるため、このような環境を生かしていく責務があると考えています。

**竹中** 今年度のSFC ORFでG-SECとして新たに発表しようと考えているコンテンツはありますか？

## 2. 結節点としての役割の充実

### マルチステークホルダーによるグローバルフロンティアへの挑戦



### グローバルセキュリティ研究所2014年度事業計画より

**田村** 新たなコンテンツというよりは、これまでの研究を着実にを行い、その成果を発表できればと考えています。毎年、SFC ORFにおけるシンポジウムでの発表を最終ターゲットとして研究を進めており、デッドラインを明確にして取り組むことができます。

**竹中** 今年の発表では、復興リーダーの視点から見た「総括」を組み込むこともできないでしょうか。

**田村** 「復興リーダー会議」は今年で第3期を迎え、3年目という節目ですので、そうした観点も組み込めればと考えています。

(2014年度第1回所内運営委員会記録より事務局にて起稿)

## G-SEC 寄附講座ガイダンス 2014年4月4日(木)

グローバルセキュリティ研究所では、社会の叡智や今日的課題についてリアルタイムな情報を学生に伝え、自ら考え、社会の発展を担う人材育成につなげることを目的として寄附講座を設置している。

今年度は春学期に1科目、秋学期に2科目の講座を開設する。履修申告に先立ち、各講座の趣旨やねらいを紹介するガイダンスを行った。昼休み時間帯にもかかわらず約130名の参加があり、講座への高い関心がうかがえた。



今年度の設置講座は以下のとおり。

【春学期】・シティグループ証券寄附講座「グローバル金融制度論」(新講座)

【秋学期】・森ビル寄附講座「アートと社会」

・シティグループ証券寄附講座「グローバル金融制度論演習」(新講座)

## G-SEC プロジェクト委員会 2014年4月4日(木)

G-SECは、外部資金による各分野のプロジェクトが一つの傘の下で研究活動を行っている。本会合は、研究者の顔合わせと、異分野の研究者が集まることにより、部門横断的研究や融合的研究に発展す

ることをねらいとして年度初めに開催している。冒頭、竹中所長より今年度のG-SEC事業計画について説明があり、引き続き、研究グループごとに今年度の活動計画について説明された。

今年度の研究課題は以下のとおり。（4月4日時点、●プロジェクト、○サブプロジェクト）

- グローバル経済研究会（竹中）
- 国際金融市場共同研究会（竹中）
- アメリカ研究プロジェクト（竹中）
- 原発事故検証フォローアップ（竹中）
- バブル後25年の検証（竹中）
- 復興とリーダーシップに関する研究（田村）
  - 交渉学研究
  - 復興リーダー会議
  - コミュニティ・オーガナイズ
- 地域コミュニティサポートスタッフ養成に関する調査研究及び運營業務委託（武山）
- ソーシャルメディアを活用した実空間におけるコミュニケーション設計及びデザイン手法の研究開発（武山）
- 慶應-国連PRMEプロジェクト（梅津）
- バイオセキュリティ分野の国際連携体制強化に関する研究調査（青木）

## 復興リーダー会議(第3期)第1回会合 2014年4月19日(土)

復興リーダー会議は今年で3期目の活動に入る。第1期は、2件の復興支援活動モデルと3件の課題共有に関する提言がまとめられた。第2期は、震災からの復旧・復興等について、個人の経験に依拠した「暗黙知」をより多く「形式知」とし、持続可能な地域振興に資する活動モデル・提言策定を目指し、4件の提言をまとめた。

第3期は、震災から3年が経過し、「形式知」化されてきた震災・復旧・復興・地域振興等に関する知見や経験に基づき、非常時におけるリーダーシップのあり方、組織形成のあり方についての分析を通して、平時に応用可能な汎用性のあるシステム作り、提言発信を行い広く社会と共有していくことを目指す。その一助としてコミュニティ・オーガナイズを取り入れる。

第1回会合では、コミュニティ・オーガナイズの基本コンセプトと、その一分野であるパブリッ



ク・ナラティブの要素、ストーリー・オブ・セルフを学んだ。ストーリー・オブ・セルフでは、会議委員各自がどの様に自身のストーリーを組み立てるべきか実践を通して考え、自身が何故この活動に取り組んでいるのかといった動機の源を語り、参加者間で共有する事により、会議委員のつながりを短時間で創り上げた。